

平成23年度 府立福井高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

普通科総合選択制高校の特色を活かし、エリア学習や選択科目での学習を通じて各生徒の興味、関心に応じた幅広い知識、能力、技術を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育、生徒指導、人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導、支援を行う。

- 1 必修科目の学習を通じて基礎学力を身につけるとともに、各自の興味関心に応じた多様な選択科目の学習を通じて、自立した社会人として生涯にわたって必要とされるさまざまな能力、思考力および豊かな感性を習得するなど、幅広い学力を身につけた生徒を育成する。
- 2 ドリカム(総合学習)を中心とするきめ細かいキャリア教育や、実習を通じてさまざまな職業につく多様なモデル像と出会うことで、将来に希望を持ち、自己の具体的なキャリアビジョンを設定して、その進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。
- 3 エリアや選択科目での学習を通じて、さまざまな社会の課題の本質を理解し、その解決に向けて具体的に行動するとともに、それらの活動を通じて自尊感情や社会的有用感が育まれた生徒を育成する。

2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成24年2月 実施]	学校協議会における提言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」と答えている生徒の割合が70.8%であり、学年が進行するごとに増加している。(3年生 77.6%) ・「この学校には他の学校にはない特色がある」…78.0% ・「評価の仕方や基準について、事前に示されている」…84.1% ・「エリアや選択授業は工夫されていて、自分の学びたいことがらを選べる」…73.8% ・「学習評価は納得できる」…76.9% ・「先生は協力して生徒指導にあたっている」…72.9% ・「将来の生き方について考える機会がある」…80.1% ・「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」…72.1% ・「人権について学ぶ機会がある」…74.6% ・「授業は分かりやすく楽しい」…48.3% ・「授業が始まる際のメロディチャイムは授業遅刻防止に効果がある」…88.4% <p>■総合選択制の高校として、着実に歩んでいるという実感がある。一方で一般科目を含めて、授業研究に一層力を入れる必要を感じる。</p>	<p>【第1回(平成23年12月7日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福井カップ」、「出前授業」、「中学校進路学活への生徒派遣」などの取組みを通して地元の高校としてアピールする実績を積んできている。今後も地域との連携を継続して推進してほしい ・若手教員の養成が大きなポイント。現在取り組んでいる小中高連携した研修は大いに評価できる。さらに推進してほしい。 ・小中学生に「福井高校はスゴイ」と憧れをもたせ、「次世代の獲得」を図れる取り組みをさらに進めてほしい <p>【第2回(平成24年3月1日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度入試で志願者は少なかったが、卒業生の福井高校に対する満足度は高い。福井高校の良さをもっと地域の目に見える形でアピールしていくことが大切。ICTの力をもっと活用すべき。地域連携についてさらに磨きを。 ・エリアと進路の関係がわかりづらい。福井高校でしっかり頑張ればどのような進路に結びつくのか、具体的な形で提示してほしい。「福井に進学すればこんな進路が開けるのだ」とわかってもらう必要がある。 ・茨木市人権教育研究での福井高校の発表が印象的であった。生徒が求めていることにアンテナを張り、興味が持てる題材をたくさん用意していると感じている。さらなる充実を。 ・地域の小学校とスポーツ交流していることが評価される。一緒にスポーツを楽しんだだけでなく、スポーツを通して異なる年代間でコミュニケーションが図れたことが大切と考える。この取り組みをさらに広げてもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	確かな学力への取組み	魅力的でわかりやすい授業 <ul style="list-style-type: none"> ・23年度中には指導教諭を決定する。 ・現在、首席が指導し若手教員が取り組んでいる授業研修会、授業方法の工夫などを全教科に拡充する。 ・OJTを通じた人材育成（ヤングプロジェクト） ・授業公開週間を年2回実施する。 ・1学期末に授業アンケートを実施し実態を調査をする。結果を教科代表者会議及び総合選択制推進会議で検討し目標設定をする。 ・総合選択制推進会議で自由選択科目を中心に改編を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間を主担する教諭を指導教諭に推薦できた。今後は、地域の人材やさまざまな教材を活用した授業作りと、若手教員の育成をはかりたい。 ○ 若手教員育成をめざして、授業研究を課すことや生徒指導に立ち合わせたりまた実際に生徒指導させたあと、指導を振り返り研修を深めた。このことは初任の教員に好評であっただけでなく、同時にベテランの教員自身の研修にもなっている。今後も人材育成に努めたい。 ○ アンケートの結果、新入生が入学後の授業で「ていねいに教えてもらっている」と感じていることが分かった。このことは、日ごろの教員の努力が実を結びつつあることを示し、教員を元気づけるものである。さらに授業研究を深め、分かりやすい授業を通して確かな学力を身につけさせたい。 ○ 授業公開を、第1回（5月）、第2回（10月）に実施した。土曜日に設定しており、保護者や地域の中学生にも来校してもらえた。「思った以上にしっかり取り組んでいる」「授業がたのしそう」などの感想を得られた。 ○ 自由選択科目について、生徒の希望の少ないものについては廃止を、一方で新カリキュラムのなかで新たな科目の設置を検討中である。
取組み②	安全で安心な学校づくり	基本的な生活習慣と規範意識の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、保護者との連携を深めるため情報の回数を増やす。携帯メールの活用、各学期末には郵送による文書の家庭連絡の実施。 ・問題行動を未然に防ぐため職員朝礼などを活用し情報の共有化を図る。 ・長期欠席などに対しては家庭訪問や中高連携で問題の解決を図る。問題によっては警察、児童相談所、医療機関などと連携する ・「安全で安心な学校づくり推進事業」の共同研究校として大阪府教育センター、府立人研等と連携し教育活動を実践し情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事、交通安全、健康管理、部活動、検定、講習、PTA行事、などについて1月末現在で48回発信できた。また、各学期末には全生徒の家庭に宛てて、学校生活の様子と成績、長期休業中の注意、その他の文書を郵送できた。学校からの情報を周知することができた。 ○ 8:30から8:35の時間帯を利用し、生徒情報や教職員間の連絡事項のやり取りを実施。情報の共有化に役立った。 ○ 日々の情報交換のほか学年主任の連絡会や教育相談委員会を通じて課題を抱える生徒の発見、指導を行った。また、専門の医療機関やスクールカウンセラーとの連携が非常に役立ったのでこれからも活用したい。今後も学年会・成績会議の内容を充実させ、さまざまな課題を抱える生徒に対して、きめ細やかな指導ができる体制づくりを行っていきたい。 ○ 懲戒件数39件48人(2学期末 昨年同期34件52人)人数は8%減 ○ 「安全で安心な学校づくり推進事業」で得られた成果を、校内ではドリカム授業に、校外では学区別交流会や小中連携研修会などにフィードバックできた。
取組み③	地域連携、小中高連携の強化	開かれた学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・全出身中学校を訪問し情報交換を行う。(年2回実施) ・「福井高校を育てる会」の活性化。年6回実施。授業やホームルームなどの連携につなげる。 ・小中への出前授業の増加に取り組む。特にエリアの生徒の派遣を増やす。 ・福井カップへの参加者、参加種目を増やす。 ・地域の実習施設への連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月と9月にそれぞれ68の中学校を訪問。当該中学校出身の本校在学生の様子を伝えるとともに本校の取り組みの説明を行った。中学校からは好評を得ることができた。来年度もより充実した情報交換ができる機会としたい。 ○ 「育てる会」をほぼ学期に2回の割合で実施。本校の特色をどのように地域の中学生に伝えるかについて意見交換できた。中学校の進路学活への参加や出前授業（6回）を実施できた。また、今年は小学校からの要請に応え、部活（陸上、サッカー、バスケットボール）生徒（スポーツ健康エリア含む）を派遣し、小学生の指導に当たった。また、吹奏楽部やダンス部が地域の小学校で公演した。いずれも小学校から大好評であり、小学生に喜んでもらったことで本校生は自己有用感・自己肯定感を持つことができた。来年度も積極的に取り組みたい。 ○ 7月～8月にかけて福井カップを実施。地域の中学校より硬式野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、演劇、ボランティアなどの部活動をしている中学生を招き大会を実施。約900人(中学校40校)が参加(周辺の中学生数が伸び悩む中、昨年並みの参加者を獲得)さらに、参加種目を拡大することや各種目の参加者を増やしたい。 ○ 幼稚園、保育所、介護福祉施設等と情報交換を綿密に行い、授業内容の充実を図った。今後も授業の満足度を一層高めるため連携を深めていきたい。